

令和 4 年 5 月の解説（府県天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、北日本、東日本、西日本では、1 日から 2 日にかけてと 8 日から 9 日にかけて低気圧や気圧の谷の影響を受けましたが、5 日頃を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。日照時間は東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側で多くなりました。また、降水量は西日本日本海側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なくなりました。一方、沖縄・奄美は低気圧や前線の影響を受けたため曇りや雨の日が続き、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なくなりました。沖縄地方は 4 日ごろに梅雨入りしたとみられます。上空の寒気の影響で 1 日から 3 日にかけてと 9 日から 10 日にかけては気温が平年を下回る日が多く、平均気温は東日本、西日本と沖縄・奄美で低くなりました。

中旬は、低気圧や前線が沖縄・奄美から本州南岸付近を通過しやすく、東日本、西日本と沖縄・奄美では曇りや雨の日が多くなりました。降水量は東・西日本太平洋側で多く、特に沖縄・奄美は平年比 393% とかなり多く、統計開始以来、5 月中旬として 1 位の多雨となりました。また、日照時間は西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり少なくなりました。奄美地方は 11 日ごろに梅雨入りしたとみられます。一方、北日本は、高気圧に覆われて晴れた日が多く、北日本日本海側と北日本太平洋側の降水量はかなり少なく、日照時間は多くなりました。北日本では暖かい空気が流れ込みやすく平均気温はかなり高くなりましたが、沖縄・奄美では冷涼な空気の影響を受けやすく平均気温は低くなりました。

下旬は、北日本、東日本、西日本では、天気は数日の周期で変化しました。東日本と西日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、26 日から 28 日にかけては日本海から北日本付近と本州南岸付近を東進した低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響でまとまった雨となり、大雨となった所もありました。降水量は北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と北・東日本太平洋側で多かった一方、西日本日本海側で少なくなりました。また、日照時間は東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側と東・西日本太平洋側で多くなりました。一方、沖縄・奄美では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かったため、降水量はかなり多く、日照時間は少なくなりました。北日本、東日本、西日本では暖かい空気が流れ込みやすく、晴れて気温が上昇した日もあり、29 日に関東地方では猛暑日となった所もありました。このため、平均気温は高くなりました。沖縄・奄美では、冷涼な空気の影響を受ける日がありました。

【5 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 3 ポイント高い 89% で、明後日予報は例年値より 4 ポイント高い 86% でした。地方別の適中率では、明日予報は、九州南部地方で例年値を下回った以外は、各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、北海道、東北、東海、近畿、中国、四国、九州北部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4℃ 小さい 1.5℃ で、沖縄地方を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最

低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.1℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の天気予報の利用にあたって】

平年では、7月の中旬～下旬に、九州地方から東北地方にかけて梅雨明けとなり、梅雨明け後は本格的な夏が始まります。しかし、7月は梅雨末期の大雨が起こりやすい時期でもあります。早期注意情報(警報級の可能性)や最新の気象情報、警報・注意報、キキクル(危険度分布)などに留意してください。